

平成29年度 第2回産学交流セミナー

不況からの脱出 ーグローバルニッチトップ企業に学ぶー

講師) 福知山公立大学 地域経営学部 学部長・教授 平野 真 氏

グローバル化の進んだ1990年代以降、日本の製造業中小企業は、新興国からの安価な製品群に押され苦しんできた。その中で、経済産業省は今後の日本を担う重要な中小企業として、ニッチな海外市場で絶対的なシェアを獲得した優良企業100社を、グローバルニッチトップ企業として表彰しました。

本講演では、グローバルニッチトップ企業に選ばれた幾つかの企業、またその他にも今後の日本の製造業中小企業の歩むべき道に大きなヒントをあたえてくれるユニークな中小企業数社について、その成功要因についてのヒヤリング調査を行った結果を紹介して頂きました。

(講演内容)

■日本の中小企業の課題と政府の振興策の変換について紹介があり、それらを受けてヒントとなる中小企業経営指針(業務拡張でB2BからB2Cへ、新たな独自の技術開発と製品開発、開発・小売での新たな連携の模索、グローバル化による攻めの姿勢へ、ICT化をチャンスと捉える)の紹介

■市場転換、企業転換、ICT導入、企業連携について成功事例の紹介

- ・ヤナギヤ、ナミックスと市場転換：ヤナギヤは蒲鉾製造から蒲鉾製造機械の開発販売、ナミックスは塗料メーカーからエレクトロニクス基盤用導電・絶縁材料メーカーとそれぞれ市場転換した。
- ・マイクロトークシステムズ、下村漆器と業態転換：マイクロトークシステムズはRFIDによるマンション、オフィス等の入退出キーロックとそのメンテナンス、下村漆器は越前漆器から福井大学と連携してナノ粒子分散多層成膜技術によるIH加熱専門食器開発とそれに基づく配食サービスへの進出へとそれぞれ業態転換した。
- ・セーレン、旭酒造とICT導入：セーレンは織物のデザインから染織までのViscotecsによる垂直統合に基づき布用インクジェット技術の開発による布染めのオンラインビジネス化、旭酒造は発酵工程等の緻密な温度管理・データ化により杜氏に依存しない近代的な酒造りを図った。
- ・ボストンクラブ、シャルマンと企業連携：ボストンクラブは地域の分業体制により省資本での眼鏡のデザイン・開発・製造・販売事業の展開を行い、シャルマンは光加工技術(レーザー微細接合)による微細な接合技術開発とそれを応用した医療分野へ進出を行いながら、地域のハブ企業として他の企業を牽引した。



■この様な成功事例から学ぶこととして、次のような纏めの紹介があった。

- ・ 経営危機の経験から経営者の強靱な起業家精神と従業員のチャレンジ精神を醸成
- ・ 地域に密着した家庭的日本的な経営が特徴(忠誠心の高い社員)
- ・ 暗黙知を蓄積する一方で、暗黙知の形成知化を図り、技術の深耕を行い、ICT活用などにも積極的に挑む
- ・ 社長自らのマーケティングにより、成長する市場へのドメイン転換、製造業からサービス業への事業転換、ビジネスモデル革新に果敢に挑む
- ・ 企業間連携や大学との連携など外部ネットワークを積極的に活用、他企業との連携・協働
- ・ ニッチ市場で利益を獲得しつつ、グローバル市場での事業拡大にアグレッシブに挑む

■講演風景

